

「ワクチン接種進むもコロナ対策規制強化」

碓 知子

いまだに世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス。しばらく市中感染はゼロでしたが、ここ数週間で感染者が増え始め、インド変異株の感染者も出始めています。そのため、5月16日から6月13日まで外食禁止で原則在宅勤務になるなど、行動制限令が発令されました。学校も閉鎖でオンライン授業に移行です。

＜宅配と持ち帰りに逆戻り＞

外食禁止の発令は2020年6月以来です。最近まで市中感染が抑えられていたため、レストランも屋台も感染対策を行いながら、賑わいを取り戻しつつありました。今回の規制は発表から施行まで2日の短さですが、罰則が厳しいので飲食店は従うしかありません。

48時間以内に持ち帰り用のEチラシの作成、オンライン告知の実施、フードコンテナの調達、宅配要員の確保など、準備は大変でしたが、昨年のロックダウンでの経験もあり、ビジネスモデルの再構築は可能でした。

一方、政府は素早く飲食店への補助を発表しました。昨年、コロナ感染拡大の経済対策として給与の一部を政府が負担する「Jobs Support Scheme（就業支援制度）」を導入しており、最大で給与の75%を補助し、経済再開後は30%に引き下げられた補助率は、今回の外食禁止措置を受け50%にまで引き上げられました。また、昨年の行動制限中に実施された、外食産業のEコマース参入費用や宅配費用の補助も、再度出ることになりました。



【テイクアウトのみ営業のコーヒーショップ】

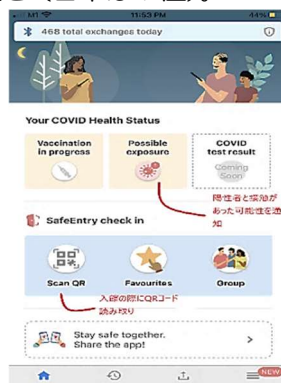
＜ワクチン接種は着々と進行＞

朗報は、ワクチン接種が着々と進んでいることです。ワクチン予約は極めて簡単で、政府のワクチン接種専用サイトから申し込むと、携帯に予約サイトのリンクが届き、リンクをクリックして5分で完了します。1回目のワクチン接種予約と同時に、2回目の予約が自動的に取れます。これまでに「ページにアクセスできない」トラブルは聞こえてきません。予約の変更はオンラインでも可能です。ワクチン会場の運営は、

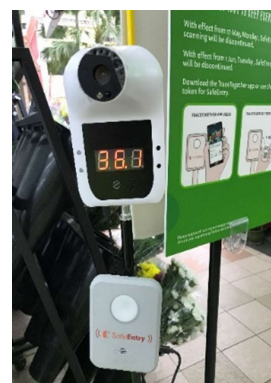
民間病院が受託し、受付から副反応を見極めるための接種後30分の待機時間も含めて45分で終了です。こうした簡便さもあり、「Our World in Data（データで見る私たちの世界：オックスフォード大学運営）」では5月10日現在、国内で1回目のワクチンを受けた人は人口の32.5%、2回目は人口の22.5%に達しています。ワクチン接種を強力に推進した英国（1回目終了が人口の53.6%、2回目が27.7%）に比べれば低いものの、近隣諸国の中では抜きん出て高い数字です（マレーシア1回目3.7%、2回目2.3%、インドネシア1回目5.0%、2回目3.3%、ちなみに日本は5月12日現在で1回目3.0%、2回目1.1%）。

＜コロナ陽性者との接触者追跡アプリ＞

陽性者との接触者追跡でもITが威力を発揮しています。政府は昨年、他人との接触を記録し、感染経路を追跡できる携帯アプリ「TraceTogether（トレース・トゥギャザー）」やトークンを開発。QRコードやIDカードのバーコードを利用した建物への入館記録アプリ「SafeEntry（セーフ・エントリー）」の利用がすでに義務化されていて、容易に陽性者との接触者が特定できます。こうしたデジタル技術の利用が功を奏して、昨年10月から今年4月までは市中感染はほぼゼロになり、4月27日のブルームバーグ社の「COVID-19 Resilience Ranking（新型コロナウイルス感染対策ランキング）」では、ニュージーランドを抜いて世界一となりました（日本は7位）。



【Trace Together の画面】



【Safe Entry の設置】

これだけ対策を講じたシンガポールも、インド変異株の新型コロナウイルスの感染力の強さに警戒を強めています。2020年はマイナス5.4%だったGDP成長率は、2021年第1四半期は0.2%のプラス成長に転じました。このままプラス成長を継続できるかどうかは、ここ1か月のコロナ対策にかかっていると言えます。